

DIGITABLE 第 42 回勉強会レポート

2011 年 2 月 19 日 於：亀戸文化センター 第一会議室



Digitable 基礎講座「Photoshop Camera RAW」：高木大輔講師
参加者全員による“ライトニングトーク”

Photoshop 研究講座「[グラデーションマップとは?]」：平野正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

Digitable 基礎講座

「Photoshop Camera RAW」：高木大輔講師

先月に引き続き RAW 画像処理の二回目。Photoshop Camera RAW について解説する。

以前はあまり使い勝手の良くなかった Camera RAW だが、バージョンアップにつれ、強力な現像ソフトになってきた。長所の一つとして、Adobe Bridge を経由すれば、JPEG や TIFF 形式のデータも調整可能で、DNG 形式で保存すれば RAW データと同じ感覚で調整を繰り返せる点も見逃せない。

また CS4 以降では「補正ブラシ」や「段階フィルター」が使用可能となり、他の RAW ソフトでは対応できなかった部分補正に対応出来るようになったのが強みだ。

○色温度の調整

通常はプリセットの光源一覧から選ぶが、必要に応じて「色温度」や「色かぶり補正」を追加して微調整を行う。調整済みの値はプリセットの「カスタム」に一時的に登録されるので、同時に調整する他の写真に適用出来る。

○明るさの調整手順

撮影時の露出で満足いかないときは、まず「露光量」で調整を試す。「白とび軽減」は Raw データに僅かに残るハイライト部の情報を復元、「補助光効果」はあたかもレフ板使用したような効果で暗部を明るく補正する。その結果、黒の締まりが足りないと感じたら、「黒レベル」数値を上げる。

「明るさ」と「コントラスト」は中間調を中心に調子が変わるので、最終的な微調整に利用するとよい。

「明瞭度」は、輪郭をクッキリ際立たせて、写真をシャープな印象に、特に中間調のコントラストとシャープネスの強弱を調整する機能だ。

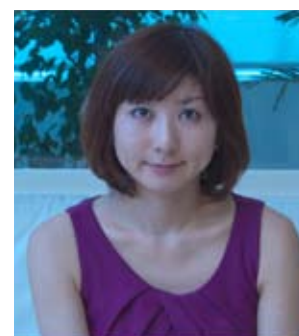
○再度の調整

「自然な彩度」は、もともと彩度が高い部分にはあまり影書を与えず、彩度が低い部分を鮮やかにしてくれるので、通常はこちらを使用するとよい。

「彩度」は全体の彩度を均等に調整するので、数値を上げると原色はより鮮やかに、また、最大限下げるとモノクロになる。



高木大輔講師の講義風景



「色温度」のスライダーを 2900K に設定して書味を強くすると夜間に撮影されたようなクールな印象になる



CS4 から搭載の「補正ブラシ」や「段階フィルター」の部分補正機能はかなり強力だ

○部分補正機能

「補正ブラシ」は、周囲に影響を与えず、ブラシでなぞった部分だけに明るさや彩度などの補正を加える。選択範囲周辺のぼかし量を調整すれば自然な印象を維持できる。逆光での撮影で顔だけを明るくしたいといった場合に極めて有効だ。

「段階フィルター」は、選択した範囲にグラデーションをかけた効果を加える。グラデーションの幅や角度を自由に調整できる。

○その他

「プリセットパネル」はよく利用する現像内容をプリセットとして保存し、あとで他の写真に再適用する機能だ。同じ環境下で撮影した写真に適用すれば調整の手間が省けるので使いこなそう。

また調整後の「画像を保存/完了/画像を開く」は使用フローをよく考えて利用したいが、「ワークフローオプション」では、CameraRaw で調整した画像を展開するときカラースペースやピクセルサイズ、解像度などを設定出来る。この場合の画像拡大仕上がりはたいへんキレイなので上手に利用しよう。

(コメントや意見の追加をお願いします)

参加者全員による“ライトニングトーク”
(持ち時間5分のショートトーク)

今月も盛りだくさんの内容だが、各人の要旨をピックアップする。

T 講師からは、いま注目されている EVER NOTE の紹介。検索機能に優れ“使える☆クラウド”だそう。

KS 氏は調色モノクロについて作品を見せてくれた。

KM さんは向島界限とスカイツリーの写真発表、水鳥の写真というのもあった。

NY さんは、人間の脳と写真の？話し。気に入った写真に向かうとドーパミンが出るそう。

久々に参加の HS 氏は、プリンターインクパッドのメンテナンスの一部始終。会員からのアドバイスが続いた。

IM 氏は年末撮影会に参加できなかったリベンジで、私設モデル撮影を敢行。

ST 氏は数年前の厳寒のトルコ旅行。凍てつく風景にあくなく撮り続ける氏のカメラマン魂に感動。

AY 氏は印画紙の階調再現領域を比較テスト中…といった本格的な内容で、いずれまとまった発表が期待される。

IN さんは自身の HP メニューのバリエーションでカラーコンタクトの作成の実際について。

HK 氏は古物についてのあれこれ、ビジネスとしての関心も持たれているようだ。

KK 氏はドイツツアーでの写真を披露。短い行程の合間に精力的に撮って来られたようだ。

IH 氏は南東北への撮影行の写真を披露。氷点下 18 度での撮影苦労話なども。

初参加の MC さんは光と影をテーマに写真を撮っているそうだが、最近是人に反応するとのこと。ユニークな視点の写真を見せてくれた。

KS 氏は C 社カメラの修理の顛末のお話し。撮影時にミラーアップしてしまったそうだが、すぐ対応したとのこと。

YA 氏はモデル撮影の写真披露とそのモデルさんの近況報告。面白い事業に取り組んでいる。

最後に H 講師から私製写真集の紹介とアーカイブから「アルス写真年鑑」などの紹介があった。



高木講師特製の「CameraRAW-これ1枚!」テキスト



Photoshop 研究講座 平野正志 講師

「グラデーションマップ」

(テキストから抜粋)

そもそもグラデーションマップというのはどう使えるの
だろう？適応すればモノクロに変換されるか、適応する
グラデーションによってはソラリゼーションのような色
調の効果になる。

グラデーションマップを適応して白黒に変換した画像の
ヒストグラムは形を変えた。明るいグレーの部分が抑え
られ全体にやや抑えた印象のようだ。

グラデーションマップを適応して白黒に変換した画像の
ヒストグラムは形を変えた。明るいグレーの部分が抑え
られ全体にやや抑えた印象のようだ。

グラデーションの範囲など微調整できる。グラデーショ
ンの間にはカラー分岐点というのを設定もできる。いく
つも設定できる、元のグラデーションが変化するのがわ
かる。カラーグラデーションでは様々な色の間に分岐点
が出来ているのが良くわかる。

グラデーションの上の段は終了点とされる下の枠の中
にある「透明度」と「位置」を変更できる。左上の黒の三
角をクリックして透明度を変更しても極端な変化はない。
微妙に濃度が薄くなるようには感じる。ヒストグラムも
あまり変化ないように見える。

下の三角はグラデーションの形を変える。画像も大きく
変化する。左の黒の三角を中央に移動すると、グラデー
ションの始点を元のグラデーションの中間調位置に移動
し、画像は黒が強くなる、ヒストグラムは左により、中
間調が少なくなった。左右の三角は始点終点の位置を意
味しているようだ。

グラデーションマップにターゲットになるグラデーショ
ンを適応してみるとカラー画像はそのままモノクロ画像
に変換される。データはRGBのままだがRGB単色では調
整はできない。0-255とグラデーションいっぱい使えば
カラー画像に適応したグラデーションに変換される。

… (後略)

(編集部注)

「グラデーションマップ」とは、元画像の輝度（明るさ）
に応じて、指定した色に置き換えるフィルタです。

グラデーションマップでは、シャドウ部分はグラデー
ションの始点のカラー、ハイライトは終点のカラー、中
間調は中間にマッピングされます。この場合、元画像の
色合いは全く関係なく、明るさだけが問題なので、一旦
元画像を、「グレイスケール」で白黒にしておくと、グラ
デーションマップのしくみが良く分るでしょう。

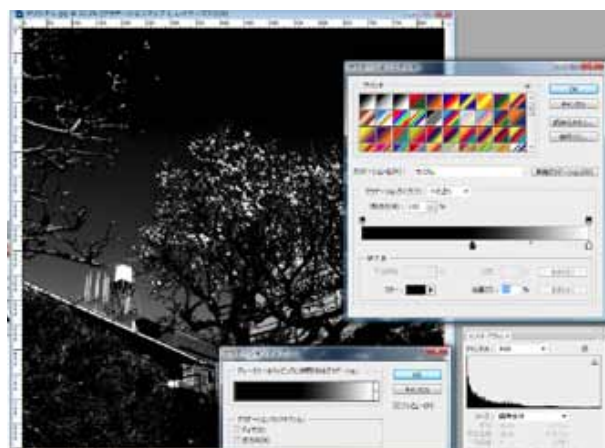
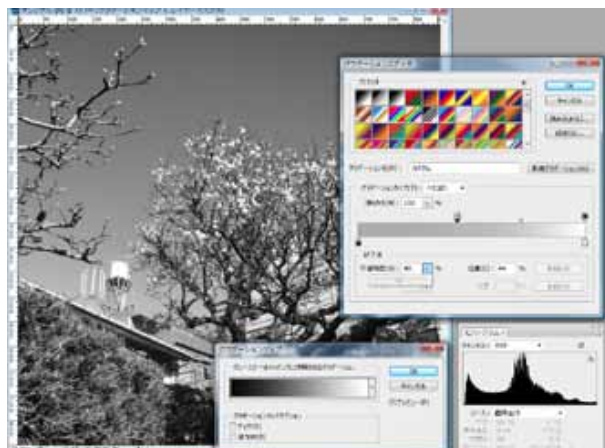
(コメントや意見の追加をお願いします)

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME)

<http://www.digitable.info>



平野正志講師



グラデーションの上下の三角をクリックして操作すると、
画像の調子が大きく変わってくる



いつものように分かり易いプリントサンプルが用意された

今月の1枚：
落ちそうで落ちない… 「受験生のお守り？写真」
提供：伊丹文男会員